

小栗上野介情報 70

ホームページ<http://tozenji.cside.com/> Eメール: tozenji@clock.ocn.ne.jp

2018(平成30)年 5月
発行:東善寺 住職 村上泰賢
群馬県高崎市倉渕町権田169
〒370-3401
TEL・fax: 027-378-2230
〒振替0120-1-406206東善寺

明治政府軍によって…

■小栗上野介父子主従

「罪なくして斬らる」 非命150年

*「明治維新150年」「明治150年」ではありません



▲「偉人小栗上野介 罪なくして此所に斬らる」の
顕彰慰霊碑 (倉渕町水沼河原) 撮影: 豊原稔

150年は77年+73年 に分かれる

◆前半77年は 1868明治元年～1945昭和20年敗戦まで ・明治・大正・昭和と戦争続きの77年で、最後はサツマイモのツルやフスマのヤキモチを食べ、国民は皆飢えていた。小学生の頃、お昼時間になるとお弁当がなくて校庭に出ていった生徒が何人もいた。いまお隣の軍事優先で国民が飢えている独裁国を笑えない、日本国が滅びかねなかった77年。その元は吉田松陰が『幽囚録ゆうしゅうろく』で唱えた「満州からカムチャツカ・オホーツク、朝鮮・沖縄～台湾・フィリピン・オーストラリアに版図を広げ日本を守る…」という日本中心の過激な煽動せんだうを明治政府以来実行してきたためと言われます。

◆後半73年は 1945昭和20年～今日まで ・辛からくも73年間戦争をしなかったおかげで、東日本大震災もその後の水害や地震も復興を唱えて堪えていられます。もしどこかの国と戦争中だったら、軍事費予算が大幅に膨らみ、大震災は不利な情報として報道規制の法律が作られ、ボランティアなどは「余計なことをするな」と立ち入りを規制されたことでしょう。

あと4年でちょうど半々になります。そしたら戦争をしない時代はオシマイでは情けない。江戸時代は260年間も戦争をしなかった時代でした。せめてこれを目標にしたいものです。

予報 小栗まつり

主催 小栗上野介顕彰会 5月27日(日)
共催 東善寺

公開講演

聴講無料

「歴史作家・技術者から見た幕
末明治維新～小野友五郎と小栗忠
順の生涯に光を当てて～」

講師 鳴海 風 氏



【講師プロフィール】1953年新潟県生まれ。東北大学大学院修了。デンソーに勤務、生産システム開発に従事。92年『円周率を計算した男』で歴史文学賞。和算を題材とした作品を中心に執筆。数学の普及に貢献したとして日本数学会出版賞受賞。2014年デンソー退社。『円周率の謎を追う』は2017年中学校課題図書。関孝和を描いた『算聖伝』、『星に惹かれた男たち』、『ランデの星』、『江戸の天才数学者』、『美しき魔法陣』など著書多数。

◆乗合ジャンボタクシー◆ 運行します 東善寺

往復1便だけ27日限定運行/先着9人まで・予約制・片道2000円(運転手に支払って下さい)

27日

往・高崎駅西口9:00 → 9:50倉渕小学校 下車

復・東善寺前(権田郵便局前)乗車15:00 → 15:50高崎駅

※下車・乗車地が異なります。ご注意ください。

※途中乗車は出来ません。

予約申込: 榛名観光タクシー 027-343-0020(担当・久保田)へ



▲墓参し献香する参拝者(昨年)
撮影: 大井寅之助

・軽い昼食もとれます。 甘茶・ナメコ汁無料

ボランティアスタッフ募集 小栗まつりのボランティアスタッフを募集します。(県・町の内外を問いません)。

26日(土)午後1:30集合～テント張り、看板つけ、昼市準備、27日(日)午前9:00～駐車場誘導、片づけなど *雨天決行

*遠方の方は26日夜寺に宿泊可能(作業着・雨具・シーツ・パジャマ 持参)

・申込み 5月15日までに電話・メールで

情報あれこれ

■ 小栗さくらさん

朝日新聞 4月10日「リレーおびにおん」欄の「維新150年」に、歴史タレントの「小栗さくら」さんが登場、「知られぬ幕臣、歴史は偏かたよる」として小栗上野介を語りました。大学の卒論で東善寺へ訪ねてきて以来、時々お参りに来ている歴女です。芸名に〈小栗〉を使ったのは、訊かれた時に小栗上野介について話すきっかけになれば、と思っただことだそうです。すてきな心がけですね。

小栗さくらがゆく<https://yukarino.jp/articles/7981486> 東善寺参拝のルポ

■ 追信

上記記事の6日前4月4日の同欄には勝海舟の玄孫やしゃごの女性が登場して「勝海舟の最大の功績は江戸城無血開城…」と語っていました。ところがその同じ新聞の別ページには大きな広告で水野靖夫著『勝海舟の罫』があって、「勝海舟の最大のホラ話は江戸城無血開城…」とありました。

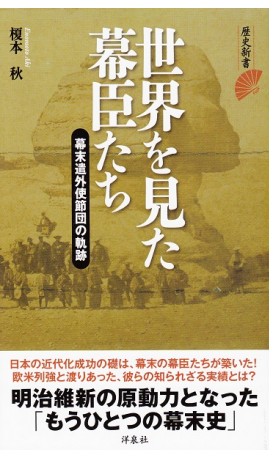
本

◆『勝海舟の罫』水野靖夫著・毎日ワンス社1500円…勝海舟の談話集「氷川清話」の欺瞞やホラ話を暴く書。筆者は山岡鉄舟研究会員で、江戸無血開城は山岡鉄舟が静岡まで出かけて事前に西郷と談判で実現したこと。それを勝海舟が自分一人で行なったように語る

のは全くの欺瞞きまん、としています。

また「対馬事件は勝海舟が陰で介入して解決…」という通説に関して、本書56pに「説得力のある説」とあるのは、『会津人群像』36号の村上泰賢「歴史を誤らせる勝海舟神話、咸臨丸神話」で勝海舟「氷川清話」のホラ話と指摘していることを指しています、という揆揅を著者水野氏からいただきました。

◆『世界を見た幕臣たち』榎本秋著・洋泉社歴史新書



950円 万延元年遣米使節から始まる五つの遣外使節団を紹介。小栗上野介の帰国後の業績も紹介されている。幕末に小判金貨が海外へ濫出しているのを是正するため小栗忠順がフィラデルフィアで行なった通貨の分析実験の説明で、「日本は金の価値が低かった…」とあるのは誤りであろう。元禄年間に銀貨を代用通貨として一分銀一つに実質三分の価値をもたせていたことがハリスに理解されないまま、ハリスに「同種同量交換」で通貨交換交渉を押し切られたために起きた混乱が原因です。

下記HP「小栗忠順の通貨交渉」参照
<http://tozenzi.cside.com/tuuka-kosyo.html>

◆『政府に尋問の筋これあり』西郷隆盛の誤算』

鈴木荘一・毎日ワンス・1,400円…「島津斉彬は当時一流の名君だったから、斉彬が生きている時の西郷は傑物だった」けれども「勝海舟は浅薄なご都合主義の奸物かんぶだったので、勝を信じた西郷は名声を汚した」。その西郷が勝海舟にだまされて倒幕や会津討伐を考えるようになった、とする。

◆『異貌の維新』岩井哲・紅花書房・2,000円…熱心な小栗ファンでもある筆者渾身の書。つぶさに資料を漁り、奥羽越列藩同盟の成立と分裂、会津藩討伐を命じられた東北各藩の苦悩、を描く好著。



「罪なくして斬らる」非命150年

小栗上野介顕彰会 今年の計画

◆小栗まつり

◆9月11日 会津で佐藤銀十郎・中根米七・川手幸八らの「墓前顕彰祭」（喜多方市熊倉）に参加

◆11月2日～7日 高崎市で「小栗上野介企画展」（シティギャラリー）開催

◆11月11日（土）午前「ヴェルニー・小栗祭」参加・午後村上泰賢の講演

◆観音山 小栗邸址周辺を整備し公園化作業

◆会津で 墓前顕彰祭 主催：熊倉史学会

9月11日午後1時～ 喜多方市熊倉

◇小栗道子夫人らを護衛して会津に至った権田村農民は、そのまま会津軍に参加、塚越富五郎は高郷地区一竿で、佐藤銀十郎が熊



▲米沢街道の熊倉宿はかつて代官所が置かれ、宿屋や商家が軒を並べ地域の中心地であった。▶



倉戦争で戦死したことは知られています。熊倉史学会では、銀十郎の他に思案橋事件で明治政府に追われる身となった中根米七が、明治11年に銀十郎の墓前で割腹かっぶくしていることも含めて慰霊供養する計画を進めていました。

川手幸八も供養

◇さらに、熊倉戦争を調べるうち熊倉の代官川手幸八に関する以下のような記述が『会津戊辰戦史』に見つかりました。

熊倉の代官川手幸八は、東軍が移った後も熊倉に留まって、代官所に貯蔵していた米を若松城に輸送することに努力していたが、まだすべて輸送しきれない内に、十四日に敵軍が若松城を総攻撃するという噂うわさが入り、幸八は到底米搬入の任務を果たすことができないのを残念に思い、残った米を敵の自由にさせないためにこれをすべて焼却した後、悠然ゆうぜんと切腹して亡くなった。遠藤蕃筆記 『幕末会津殉難者名』によれば、川手はこの時十石三人扶持で八月二十一日に自刃、36歳でした。

◇川手の自刃の理由は次の二つと考えられる。

1, 米を城へ輸送する責任を果たせなかったこと。

2, その米は勝敗いかににかかわらず戦争が終わればいずれ民を救う貴重な食料であり、しかも私物ではない。公物を私の判断で焼却した責任をとった。

◇このような立派な人物が永いこと供養もされないままなので、ぜひ供養の対象にしてほしいと熊倉史学会にお願いし、「墓前顕彰祭」で共に慰霊供養することとなりました。

◇権力者に付度そんたくし、国有地を8億円も不当に値引きして森友学園に売却してしまった財務官僚と権力者及びその取り巻きは、ともに参列して己の身を恥じるべし。